

令和2年度第1回

長洲町

総合教育会議 記録

令和2年度第1回長洲町総合教育会議

○日 時

令和2年12月3日(木) 午前10時00分～午前11時20分

○場 所

長洲町役場3階大会議室

○委 員 (6名)

町 長	中 逸 博 光	教 育 長	戸 越 政 幸
教 育 委 員	坂 本 裕 文	教 育 委 員	上 野 美 登
教 育 委 員	隈 部 壽 明	教 育 委 員	徳 田 美 津 子

○欠 席 者 (0名)

○関 係 者 (6名)

腹 榮 中 学 校 長	牧 山 純 一	長 洲 中 学 校 長	中 山 直 幸
腹 赤 小 学 校 長	稲 田 尚 誠	六 栄 小 学 校 長	城 祐 治
長 洲 小 学 校 長	川 富 一 弘	清 里 小 学 校 長	藤 本 竜 一

○事 務 局 (5名)

副 町 長	平 川 一 喜	総 務 課 長	濱 村 満 成
総 務 課 長 補 佐	石 本 り か	総 務 課 担 当	五 十 嵐 史 紘
総 務 課 担 当	甲 田 結 香		

○教 育 委 員 会 (6名)

学 校 教 育 課 長	松 林 智 之	学 校 教 育 課 指 導 主 事	松 井 明
学 校 教 育 課 長 補 佐	金 森 秀 益	学 校 教 育 課 長 補 佐	福 永 道 尚
生 涯 学 習 課 長	漁 長 洋 志	生 涯 学 習 課 長 補 佐	塩 本 武

○説 明 補 助 (5名)

ま ち づ くり 課 長	田 成 修 一	住 民 環 境 課 長	森 山 繁 生
福 祉 保 健 介 護 課 長	宮 本 孝 規	農 林 水 産 課 長	吉 田 泰 滋
会 計 室 長	藤 井 司		

議事次第

- 1 開会
- 2 主催者挨拶
- 3 協議・調整事項
 - I C Tの活用について
 - 各課説明
 - 委員の意見交換
 - 全体協議
- 4 その他
 - 令和2年度第2回長洲町総合教育会議について

【司会（石本総務課長補佐）】 おはようございます。定刻になりましたので、ただいまより令和2年度第1回長洲町総合教育会議を開会いたします。

それではまず、開会に当たりまして、主催者であります町長の中逸博光から御挨拶を申し上げます。

【中逸町長】 皆様、おはようございます。今回の教育総合会議、今年度初めての会議になっております。コロナ禍にあってなかなか開催ができませんでした。しかしながら、玉名地域をはじめ熊本市内も多くの感染者が発生しております。長洲町も7月にはクラスターということで、本当に皆さんには、大変御迷惑を先生方にはおかけいたしました。何とかこのコロナ感染を克服してまいりたいと日々努力しておりますが、なかなかワクチンも製造は、今、御存じのように世界ではされておりますが、ワクチンの配布が来年以降になるということです。集団接種をしなくちゃならない、これを自治体がやらなければならないということで、我々もどのような形で集団接種に取り組んでいったらいいのか非常に悩んでいるところでございます。

今日はこういったICTの活用について、皆様と今後のICT社会の整備に向け、学校のみならずまちづくりの視点から協議してまいりたいと考えております。今回、担当課長も出席しておりますので、どのような取組を行っていくかを知るのにはいい機会だと思っております。

最後になりますが、委員の皆様の今後ますますの御健勝を祈念申し上げて、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくようお願い申し上げます。

【司会（石本総務課長補佐）】 本日は町内の小中学校の校長先生方にも御出席をいただいております。どうぞよろしくようお願いいたします。

それでは、早速ですが、本日の次第3にございます協議・調整事項となります。

長洲町総合教育会議運営規約第2条におきまして町長が議長になることとなっておりますので、これからは町長に議事の進行をお願いいたします。

《 3 協議・調整事項 》

【議長（中逸町長）】 皆様、改めましてよろしくお願い申し上げます。

本日は今年度第1回目の総合教育会議となりますが、政府においてはデジタル庁の創設が予定され、あらゆる分野でデジタル化、ICTの活用による施策が展開されてまいりま

す。これから活用が進んでくる段階ではありますが、長洲町においても様々な分野においてICTを活用していくことが求められております。今日の会議は、長洲町だけにとどまらず全国的に導入が進められている、また、これから導入が進められるであろうICTを使った施策を共有し、行政、福祉、防災、産業など、そして、教育における今後の導入計画並びに効果等について、協議する場にしたいと考えております。

長洲町として取り組むかどうかはまた別の話ではありますが、これからの将来のICT化について、皆様の自由な発想で様々な可能性を探ってみたいと思っております。まずは各課長から所管する分野での課題や展望、事例などを説明していただきます。まちづくり課長から順に説明をお願いいたします。

【田成まちづくり課長】 おはようございます。まちづくり課長の田成と申します。着座で説明させていただきます。

資料のほうは、まちづくり課でお配りさせていただいているものでございます。

今、町長からありましたように、ICTに関する機器、また、技術等、デジタルデータといえますか、そういったものが私たちの生活環境や産業において、様々な分野において活用されています。それは将来に向けて力強い町といえますか、生活または快適な生活が送れるためには必要なものと考えているところでございます。しかし、そういうICTを行うことが、それに取り組むことが目的ではございません。あくまでもICTとは手段や道具でありまして、その道具を活用して、この社会をどう変えていくかが肝になってくることかと思っております。

資料につきましては、他町の例でございますが、そのイメージを配らせていただいております。真ん中に町がありまして、例えば健康福祉面においてはフレイル健診等に対応するとか、社会参画においても在宅で受講できるような環境を整備すると、今のコロナ禍においては対応できるんじゃないかとか、また、産業・雇用においてはスマートアグリ、農業等の育成、振興ができないか。観光面においてもいろんなツールを使いまして、アプリを使っての観光客誘致、防災・防犯に関してはセンサー等を活用した見守り、また、いろんなことができるだろうと。医療・交通に対しては予約制の乗合タクシーとか、いろんなここに書いてあるようなことが、まず基本的にはICT・IoT技術を活用した新しい価値を創出するまちづくりのイメージはこういうふうになってくるかと思えます。

後で担当課長のほうからも、それぞれの分野については個別に説明があるかと思えますが、こういったイメージで取り組めたらと思っているところでございます。

2ページに、それを具体的に文章で表現したものが参考といたしまして、スマートシティというような言葉で今、動いている部分もございます。それを参考にした資料でございます。内容、詳細につきましてはまたお読みいただければと思います。

本日、教育会議の場でございますので、もう一つ参考になるかなということで、3ページに取組の一つの例で、三郷町ICT学び推進協議会というものが例としてありました。これは子どもから地域住民、また大学や民間企業、一体となって学びを推進していこうと、ICTに関する学びを推進していくという取組の例でございます。

4ページでございます。これで何を指すかということで、今、学校教育の現場でも重要となっておりますプログラミング教育、ロボットやクラウドプログラミング、ロボットプログラミング等を一体にやって取り組んでいこうということで、これは国の実証等を受けてこういう取組を、実証に関する補助等を受けて取り組んだ例でございました。このようなことも一つとして考えていかなければならないんじゃないかと思っておるところでございます。

また、5ページになりますと、まちづくり課で所管しております業務等に、どういったことでICTを活用できるかということで、全国的に普及を図っておりますマイナンバーカードを活用した高齢者等への医療支援ということで、長洲町におきましても「きんぎょタクシー」という乗合タクシーを運行しておりますが、地域住民の方にマイナンバーカードを活用して電子化・自動化による利便性の向上を図ることで、ICTの導入ができないかということも考えており、これはマイナンバーカードと乗合タクシーを活用した一つの例ということで、5ページのほうに紹介させていただきました。

また、最後の6ページでございますが、行政にあるあらゆるデータを活用し、空き家等の実態調査に活用できないかという例でございます。行政の中に、皆さん御存じのように住民基本台帳、住所の登録、固定資産税の台帳、また、水道ということで、空き家になれば水道のメーターが動きません。そういった状況を踏まえ、空き家になり得るものを推定し、可視化するというような取組の例でございます。このようなことで行政の効率化が図られるんじゃないかということで紹介させていただいております。

今、説明しました内容につきましては一部ではございますが、今後ICTを活用したまちづくりを進めるに当たりましては、町といたしましては組織を新たに立ち上げまして対応していきたいと考えているところでございます。そういった中で様々な課、また、機関等が連携し、ICTを活用したまちづくりが推進できればと考えておりますので、どうぞ

よろしくお願ひしたいと思ひます。

簡単でございますが、まちづくり課からは以上でございます。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

次に、総務課、お願ひいたします。

【濱村総務課長】 おはようございます。総務課長の濱村でございます。よろしくお願ひいたします。着座にて説明させていただきます。

資料1で説明をさせていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。総務課が所管しています事業等で、ICTが活用できるもの、今後期待されるもの等について、幾つか説明させていただきます。

まず、総務課の一つ目です。業務システムの標準化でございますが、現在、政府で検討されております地方自治体の業務システムの標準化、つまり、システムの仕様、内容を統一しまして、開発のコスト、また、自治体の導入コストを削減するとともに、利便性の向上が期待されるものでございます。現在、各自治体の状況としましては、一度システムを導入いたしますと、それぞれ様々なデータの蓄積があったり、設定等もいろいろ各それぞれ違った形で行われておりますので、新たな事業者、システムの業者にシステムを切り替えるのは莫大なコスト等が必要となるために、ほとんどの自治体が最初に導入したところでシステム会社との契約を継続することとなっております。これらの問題等を解決するという狙いもあるところでございます。これに関しましては、現在、国の方で標準化ということで各分野検討がされておまして、今後、各分野で取り入れられていく可能性がありますので、国の動向につきましては注視して、併せて進めていきたいと考えているところでございます。

次に、オンライン申請でございますが、住民の利便性向上とともに新型コロナウイルス感染防止にも資するということで、政府におきましても積極的に導入していく方針とされているものであります。資料にありますように、一部の政令市などにつきましては導入が進められているところもありますが、小規模な自治体での導入になりますと、システムの構築に要する費用や人材面などハードルが高く、あまり導入が進んでいないのが状況でございます。今後は一部の申請など、使用が始まっているマイナンバーカードを活用したオンラインの申請の拡大が進められることが見込まれますので、町としても対応は進めてまいりたいと考えております。

次に、役場の業務効率化のためのAI、RPAの活用でございます。荒尾市におきまし

ではふるさと納税の申請書を機械で読み込みまして、システムに反映させるというRPAを導入されておりまして、職員の作業時間の削減など、一定の効果があつたとされております。RPAの強みといたしましては、作業量が多い単純な作業、処理を人に代わってシステムで行うところでありまして、この面で職員の作業が要らなくなることから、業務の効率化と経費の削減が図られるというものでありまして、一つの事務の作業量が多ければ多いほど効果が出ると考えられます。反面、小さな自治体におきましては、一つの事務の作業量がそこまで多いこともないところもございまして、一人の職員が多く種類の事務をこなしているという実態がありますので、事務の一つ一つに導入が必要なRPAでは、費用の割には効果が出にくいという性質もあります。しかしながら、各自治体で導入が進みますと価格等も抑えられてきまして、コスト的にも下がればメリットも出てくる場所もありますので、検討のほうは進めていかなければいけないと思っております。

次に、2ページをお願いいたします。次のページをお願いいたします。

2ページの一番上、電子入札でございます。これにつきましては、熊本県が電子入札システムを構築しておりまして、現在、県内では45自治体中25の自治体が参加しております。長洲町はまだ参加をしておりますけれども、こちらにつきましては職員の作業量の削減等もできますので、今後、積極的に導入を検討していきたいと考えているところでございます。

最後に、防災での活用となります。防災の情報共有システム、物資調達・輸送調整等支援システムが国・県によって作られていまして、それを活用して順次、部分的に運用が開始されておりまして、町のほうもシステムへの入力等を行っているところでございます。また、防災メール配信サービスによる防災情報の発信につきましては、登録制でありますけれども、防災メールを発信しております。防災メールにつきましては、今後、外国人の方への情報提供もできるようにということで、多言語化、多言語に対応するシステムへのバージョンアップを進めることとしております。

最後に今年度、役場庁舎及び避難所におきまして、Wi-Fiの環境整備を行ったところでございます。避難所におきまして住民の方であったり役場の職員からの情報等が、今まで以上にやり取りができることになると考えております。今後もICTを活用いたしました情報の取得であったり情報の提供など、検討を行っていくとともに、利活用できる人材の育成も併せて進めていきたいと考えているところでございます。

総務課は以上でございます。

【議長（中逸町長）】 次に住民環境課長、お願いいたします。

【森山住民環境課長】 皆さん、おはようございます。住民環境課、森山と申します。着座にて説明させていただきます。

住民環境課では、タブレットによる各種証明書申請についてでございます。個人関係の帳票など、一部の自治体ではペーパーレス化を含め取組が行われており、また、今後スマホからの申請など高度な申請も可能となる見込みでございます。

続きまして、課題につきましては、財源の問題とともに、タブレット操作の説明等に多大な時間を要することが予想されます。また、費用対効果の面から慎重になる小規模自治体が多いと考えられます。今後の方向性として、窓口のデジタル化を検討する上では、全庁舎で関係部署と一体となった協議、検討を行う必要があります。

続きまして、ごみ関連アプリでございます。福岡県のみやま市など一部の自治体では、ごみ出し日やごみ分別が分かるアプリによるごみ出しマナーの周知、御家庭に出すごみ集積所一覧で集積場所をクリックした場合は、その地域の集積場所を詳細に示した地図が表示されるシステムとなっております。長洲町におきましては、LINEによるごみ出し早見表の情報を発信しております。

続きまして、課題につきましては、アプリ導入による効果のごみ出しマナーの向上に結びつくか不明なところがございますので、今後、定期的に意思疎通などを行いまして検討してまいりたいと考えております。

今後の方向性として、現在の長洲町LINEなどで情報の内容を多種多様化して、内容を充実させるなど、検討を行っていくこととしております。

以上で、住民環境課の説明を終わらせていただきます。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

続いて福祉保健介護課長、お願いいたします。

【宮本福祉保健介護課長】 おはようございます。福祉保健介護課、宮本です。説明は着座にて行います。

資料の下のほうになります。福祉保健介護課は、今のほうがいろんな自治体の業務のシステムの統一化を図りながら効率化、可視化をというところで動いている中で、PHR、医療・保健分野のところの国の動きの中の部分の説明になります。パーソナル・ヘルス・レコードの整備になります。

PHRといいますけれども、これにつきましては生まれ持ったからの個々の健康状態、

いろいろな情報を一元管理して、皆さんそれぞれがそれを確認することができる。それと医療機関同士の情報の共有ができると、自治体間でいろんな情報が共有できるようなシステムの活用をしていくというところが主立った中身になります。

具体的に申しますと、健診の情報とか医療機関が持つレセプト情報、学校で言いますと学校健診の情報ですね。あと、処方箋。投薬等のいろんな情報も含めて、そういった情報を一元管理し、それを個々が見られるようになることで、個々の健康意識を高めるということと、もう一つ、災害のときにそういった情報がないというところを防ぐために、閲覧ができる状態に持っていくという狙いもあります。

それと、様々な情報を集約する中で、いろんな医療・保健分野の分析が可能になりますので、そういった情報の中から今後の利活用の研究も含めて活用していくようなところで今、動いています。状況としましては、今、法整備を令和3年度に行うというところで、活用につきましては上のほうに書いてあります。令和4年度中に活用を開始しながら、2025年までに全ての業務について対応できるようにするというところで動いています。

課題につきましては2点書いておりますが、これはマイナンバーカードと連動してという形になりますので、ここの部分の普及。それと、大人から子どもから高齢者の方までということになりますので、高齢者等へのスマートフォンの普及といたしますか、ICTに対応できる高齢者の育成といたしますか、そういった部分が課題になっていきます。

これが実現していくことで、健康づくりに活用ができるということと、より質の高い医療・介護の情報の提供が可能になるということになりますし、全国の医療機関でこの情報が共有できることで、いろんな無駄が省けるといたしますか、必要な医療の提供が素早く可能になるというようなところでございます。

以上でございます。

【議長（中逸町長）】 次に農林水産課長、お願いいたします。

【吉田農林水産課長】 おはようございます。農林水産課の吉田です。着座で説明をさせていただきます。

農林水産課からは第1次産業、特に農業分野で進められている国の動き、それと町で既に実績等も幾つかありますので、そのあたりの御紹介を含めてさせていただきます。

まず、資料1の4ページと、もう一枚カラー刷りのほうで、スマート農業推進総合活用事業の概要をちょっと参考でつけさせていただきますので、この二つを使って御説明をさせていただきます。

まず、国のスマート農業の考え方なんですけれども、こちらにつきましては農業分野における課題ということで、農業就業人口が昔と比べると、国のデータでは1995年のデータからすると414万人いたのが、2015年では210万人ともう半分になる。あわせて、一経営体当たりの耕地面積が1995年は1人当たり1.6ヘクタールから、2015年になったら2.5ヘクタールと、逆にこちらは倍増するというような状況を受けまして、人の手だけではどうにもならないという状況から、国がスマート農業という政策を打ち出しました。

考え方といたしましては、機械の導入等あるいは今、持っている技術がなかなか下に伝わっていないようなものを、AI等を活用してロボットあるいはデータで活用していこうというのが大まかな流れでございます。ちょっとカラー刷りのほうで今、スマート農業総合推進パッケージというところなんです、これは今まで国が進めてきたスマート農業を、現段階でこの1から5項目の五つの柱で展開をしていくということで挙げさせていただいているところです。これは一つずつ説明しませんので、後でちょっと参考に、今現在、国が進めている農業分野の柱ということで御参考にしていただければと考えております。

こういった全体の流れに伴って、資料1の4ページなんです、今まで長洲町で取り組んだ事例として、広域無線ネットワークを活用した産地競争力強化と農家の収益向上ということで取り組んでいます。これは何かといいますと、NTTさんとコンソーシアム形式で連携いたしまして、ミニトマト農家さんが複数回、実際、圃場の実証データ、例えば天候でありますとかと、どのくらいの湿度になったらどれくらいの水をあげるとか、そういったデータを実際システムのほうで取りまして、それを集約するような実証実験も含めた形で行っております。これは二、三年にわたって行われたんですけれども、一応こういったデータも先ほど言ったスマート農業の流れのビッグデータに集約されていきますと、例えば九州、熊本県の天候、年間の天候とか、そういったものによって、じゃあ、資材管理がどのくらい肥料が必要なのかということ、AIで読み込ませることによって自動化できるというようなシステムになります。

そういったところを今、構築しながら、先ほど言ったロボットのほうの技術にも生かしていこうという取組を実際されているということでございます。今、少しずつこういった実験を伴ったデータを、もともと農家さんにおかれましては各圃場の中で個人的に管理されていることも出てきているというところでございます。

課題としてここに書いてありますけれども、やっぱりこうした通信技術とか遠隔操作機

能のIoTの構築が、今後やっぱりどうしても課題になっていきますし、方向性としましては、そういったビッグデータが国のほうで今、プラットフォーム化ということで構築されていますが、やはりそういったものがないと、なかなか個人管理だけでは難しいのかなというところもございますので、今後ますますそういう事業が進んでくると。

うちのほうでは今、事例としてはハウスの農家なんですが、スマート農業の今ちょっと御紹介をさせていただきますと、例えばトラクターですね。トラクターとかもGPS機能を使って自動運転、一部自動運転。それと、田植機なんか圃場の面積を読み取って、苗とかを乗せるのは人がしなきゃいけないんですけども、乗せた後の苗を自分で運転しながら田植をするという機械がもう導入をされつつあります。

そういったものが今後増えてくることによって、先ほど言った人口が少なくなってくる中での圃場管理が、より大規模に行っていくことが可能になってくる時代がもう目の前に来ているところを、ぜひ御紹介しておきたいなというところで、今後長洲町でもそういうのが出てくる可能性があるというところで、御紹介をさせていただきます。

以上です。

【議長（中逸町長）】 それでは、最後に会計室のほうからお願いいたします。

【藤井会計室長】 改めまして、おはようございます。会計室の藤井です。私のほうからは公金収納、間違いのない徴税ですとか使用料・手数料などの取扱いについて説明させていただきます。着座にて説明いたします。

本日御出席の皆さんも既に御存じのとおり、今や日常生活の買物ですとか飲食などに、あらゆる場面において現金を利用せず、キャッシュレス決済を利用する人が急激に増加しております。特に昨年10月からの消費税増税に併せてスタートいたしましたキャッシュレス決済によるポイント還元事業が始まったことも、その増加の大きな要因と言われております。お越しの皆さんも既に利用されているのではないのでしょうか。

なお、政府では令和元年6月に閣議決定されました成長戦略マップにおきまして、2025年までにキャッシュレス決済比率を倍増し、4割程度を目指しているところでございます。キャッシュレス決済とは大きく4種類に分類されまして、まず、一つ目はクレジットカード。二つ目にデビットカード。三つ目は電子マネーの交通系のSUGOCAですとかnimoca、あとはショッピング等で使われますプリペイドカードなど。四つ目にコード決済といいまして、PayPayですとかLINE Pay、いわゆる何々Payと言われるものがあります。

総務省におきましては、平成31年3月に地方公共団体の使用料・手数料等の公金収納において、電子マネーの利用に当たっての留意事項等を通知いたしまして、その取扱いを明確化されておりまして、さらに令和元年5月にICT活用による行政推進を図るために、通称デジタル手続法が公布されるなど、国といたしましても地方行政の積極的なキャッシュレス化を目指しているところでございます。

具体的な取組といたしまして、経済産業省では今年度、自治体窓口や公共施設のキャッシュレス化に取り組むモニター自治体を、全国29自治体を選定いたしまして、併せまして、今年度から策定いたしておりますキャッシュレス化の具体的手順を示した導入手順書に、今後モニター自治体のノウハウですとか課題等を手順書にさらに反映いたしまして、他の自治体へ広く推進を図っていくとされているところでございます。なお、このモニター自治体、県内唯一選定されました宇城市におきましては、書かれておりますとおり、今年度から市税、保育料の電子マネー決済、その中でもコード決済と言われるものでございますけれども、PayPay、LINE Pay利用による決済を導入されているところでございます。この話題については、内容と動向を注視していきたいと思っているところでございます。

続きまして、課題でございますけれども、大きなところで申し上げますと、キャッシュレス決済導入に向けての検討からの体制整備等に伴います人的コストであったり、実際に決済システム等の導入にかかります金銭的成本。なかなか見えづらいところもありますけれども、導入の費用対効果等も見据えたところで検討していく必要があるのではないかと思っております。また、現金決済とは違いまして、利用者の決済から実際に入金、反映されるまでのタイムラグがどうしても生じてまいります。そういったところも大きな課題ではないかと思えます。

そういった方向性といたしまして、今後ますます急速に進展してまいりますキャッシュレス社会におきまして、住民サービスの向上、さらには事務の効率化を図るため、国・県の動向を注視しながら、さらに先進自治体の状況、成果を参考にしながら、導入についての時期や方法等を検討してまいらなければならないかと思えます。また、キャッシュレスではございませんけれども、現在、町のほうで現金決済と、あと、口座振替のほうも行ってまいります。毎年650前後登録をいただいておりますけれども、こちらについても今現在、書面で行っておりますが、熊本市あたりではこちらをわざわざ銀行窓口へ出向いての手続、書面での手続ではなくてインターネット、ウェブ完結型の口座振替サービス等もなされてお

ります。あと、お隣の荒尾市さんにおかれましては、24時間収納可能なコンビニエンスストアでの収納を、来年度導入をめどに現在進められております。こういったところも併せて検討の余地があるのかなと思っているところでございます。

ちょっとはしょって説明いたしましたけれども、会計室からは以上でございます。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

町長部局の説明を終わります。次に、教育委員会からの説明をお願いいたします。

学校教育課長、お願いいたします。

【松林学校教育課長】 おはようございます。学校教育課の松林でございます。着座にて説明をいたします。

資料はお手元お配りの長洲町G I G Aスクール構想の実現に向けてをお願いいたします。

1ページ目を開けていただきまして、こちらにはこれからのICT教育の必要性を掲げております。新学習指導要領が小学校では今年度から、中学校では来年度から全面实施となります。各学校においてはコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適正に活用した学習活動の充実を図るということが明記されております。

将来S o c i e t y 5 . 0の時代を生きる現在の子どもたちにとって、パソコン端末は鉛筆やノートといった現代の文房具であり、仕事でも家庭でも社会のあらゆる場面でICTの活用が日常となっていくことが予測されています。学校教育におきましても、日常的に使う現代の文房具を子どもたちが適切に活用する技術を身につけさせていくことが求められているというところです。

次の2ページ目をお願いいたします。このような中、国のほうではG I G Aスクール構想が打ち出されまして、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けてG I G Aスクール構想が加速され、今年度におきまして全ての学校に高速通信環境と1人1台端末が配置されることになりました。本町におきましても、子どもたちの社会で生き抜く力を育み可能性を広げていくために、子どもたちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びを持続的に行うため、学校の普通教室には無線LAN環境を整備しまして、児童生徒1人1台のタブレット端末の配備を進めているところでございます。これまでの学校現場で積み上げてきた教育実践とICTを融合させ、新学習指導要領が目指します主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行い、子どもたちのこれからの社会を生き抜く力を育成してまいります。

次の3ページ目には、本町が導入しますタブレット端末の内容を示しております。学校で使うという特性上、衝撃に強い本体機器というふうになっておりまして、脱着式のキーボードとタッチペンが附属しております。また、ソフトウェアとしましては5種類の支援ソフトを導入いたします。マイクロソフトのワード、エクセル、パワーポイント、また、共同での学習に適していますロイロノート、先生たちの授業を支援するためのペンプラス、児童生徒たちが個別に学習することができるeライブラリ、遠隔で映像でのやり取りができるZoom、こういったソフトウェアを導入いたします。

次のページにはそれぞれの特徴を載せておりますが、時間の都合上、今回は割愛させていただきます。

次は6ページ目をお願いいたします。このようなソフトが導入された端末を学校現場で使用するためには、まず、先生方の指導力の向上が必要となります。ICTが導入されることによって、先生たちはどのように感じているのかというところで、調査をしております。

こちらが8ページ目になります。ICT機器を先生自ら操作する力、また、それらを子どもたちに教える指導力の両方が必要となっていきますが、先生方の対応力が今後、課題となってまいります。

次に、9ページ目以降をお願いいたします。まず9ページ目、教育委員会では七つの基本方針として今後進めてまいります。

1点目に、授業で学習能力を高めるためにICTを活用していきます。一人一人の学習能力に応じた個別最適化された学習、また、一斉学習により学習意欲を高め、映像や書き込みによる深い学び、協同学習による思考力や表現力を高める力を育成してまいります。

2点目に、情報活用能力を高めるためにICTを活用していきます。カメラで撮影し観察記録を取ったり、インターネットで調べて情報収集をしたり、データをグラフ化したり、プレゼンテーションをしたり、目的に合わせたICTの活用と、物事を順序立てて論理的に考えるためプログラミングを取り入れた論理的思考力の育成、トラブル回避のための情報モラルを育成させていただきます。

次のページ、10ページ目です。3点目に、教職員のICTを活用した指導力の向上。

4点目には、継続して実施可能な基盤の整備としまして、持続可能な学校ICTの基盤整備。

5点目に、教育の情報化に向けた支援体制の充実として、ICT支援員の配置や校内で

の支援体制の充実を図ってまいります。

6点目には、ICTを活用して事務等の効率化を図り、教職員の働き方改革に取り組んでまいります。

7点目には、今回のようなコロナの影響など、緊急時にも子どもたちの学びを保障できる環境を整えていきます。

この基本方針を踏まえまして、本町におけるGIGAスクール構想の推進を図るため、推進体制を整備し学校、教育委員会をはじめとする関係課との連携を図りながら実施してまいります。

11ページ目に推進体制のほうを掲載しております。

最後、12ページ目でございますが、GIGAスクール構想の進捗管理につきまして、記載の内容のとおり指標を用いて把握、進捗管理をしてまいります。

以上が学校教育課のICTの取組でございます。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

生涯学習課長のほうからお願いいたします。

【漁長生涯学習課長】 こんにちは。生涯学習課、漁長でございます。着座にて説明させていただきます。

資料につきましては、すみません。資料1に戻っていただきまして、5ページの下段になります。項目としましては、ICTを活用した持続可能な公共施設の管理でございます。こちらにつきましては、大きく言いますと今、社会体育のほうになりますが、長洲町におきましては、各小中学校の体育館を夜間、土日の空いている時間を利用させていただきまして、一般の方へ開放、貸館を行っているところでございます。

しかしながら、こちらのほうが一般の住民の方への貸し出す手順としまして、公民館まで予約の受付をしていただき、また、利用日につきましては鍵の受取り、鍵の施錠の返却というようなところで今、やっているところでございます。予約につきましても、申請の段階で利用料金を現金で支払っていただくという流れになっておりますが、今、全国的にこういったことに対応するに当たりまして、電子、ICTを用いました予約システムを各市町村構築されてきているところがございます。

今までは、予約はできましたが鍵についてはどうしても物理的な受渡しが必要という状況でございましたが、近年のICT化につきまして、民間企業のほうもそういった対応の商品を作ることによりまして、後づけではございますが体育館の鍵とかを電子錠、電子鍵

等を取り付けることにより、遠隔での開錠、パスワード発行での開錠、スマートフォンにキーを持たせることでの開錠等、様々な物理的な鍵の受渡し等もないような形で、利用の方が申込みをして、そのまま利用時間に利用の体育館に来てできるというようなところが取り組まれております。そういった利用方法を踏まえまして、長洲町でも今後検討していく必要があったら、方向性を見ながら考えていきたいと考えているところでございます。

こちらの課題としましては、やはりそういったシステムを導入しますランニングコストであるとか、また、先ほども会計課のほうからも説明がありましたが、利用料金のクレジット決済、キャッシュレス化等様々な問題点がまだ課題として残っているところでございます。

最後に方向性になりますけれども、他市町村の動向や民間企業が様々な商品開発をなされております。そういったものも見ながら長洲町に合った利用の利便性が上がるような商品等を見極めながら、導入を検討していきたいところでございます。

続きまして、次のページをお願いいたします。6ページ、電子図書館の導入でございます。こちらは図書の方になります。全国的に電子図書という取組をされております。先進事例としまして、熊本県内におきましても、熊本市、八代市、また、荒尾市も今後やっていくというところで、方向性を出されております。また、こちらは町の図書館だけではなく、電子化することによりまして学校図書との連携といったものを踏まえて考えて、一体化した協議ができるのではないかと考えているところでございます。

課題としましては、小規模自治体で一からシステムを構築しますと、多額の費用が必要となります。また、開始すれば現在の紙ベースでの書籍代に加えまして、電子書籍、こちらにも新たに購入という形を取っていきますので、システムの維持管理費やランニングコスト等が大きな費用で出てくるというところで、今後こちらが全国的に費用、コストが下がってくるタイミングもあるかと思えます。また大きな自治体等、広域的に行うことによって費用とコストを削減ができないか等、いろいろ検証しながら進めてまいりたいと考えているところでございます。

すみません、方向性はそういうことになりますが、今回のコロナ禍を受けまして、全国的に電子図書館の動きが進んできております。でも、先ほど申しました課題もございまして、その辺も踏まえながら今後、検討してまいりたいと考えているところでございます。

生涯学習課からは以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

今、町長部局や教育委員会からICTの活用、課題と方向性について説明がありましたが、今日は委員の皆様におかれましては、漠然としたICTのことだというように聞かれたかと思えますけれども、今後それを子どもたちの様々な分野での能力向上につなげていかななくてはなりません。委員の皆様から、まだまだ今日は漠然としたものかもしれませんけれども、ICT社会に向けた御意見や御要望、こういうのをお聞かせいただければと思っております。

まずは坂本委員のほうから、何かありましたらお願いいたします。

【坂本委員】 それでは、失礼します。

今の説明を聞いて、町全体として一番ポイントになるのが、推進母体ができたとということです。推進母体がなければ町全体としての進行状況が劣っていくんじゃないかなと思いますので、やっぱり母体、組織と母体、推進する母体が強力に引っ張っていただくことがなければ、このICT化、町としてのICT化は進まないんじゃないかなと思いますので、ぜひ母体を中心として、各課が連携しながら取り組んでいくという方向性を持っていただければありがたいなと思います。

それから、GIGAスクール構想の中で出てきた部分では、学校教育課からありましたように、一番は指導者の指導力の向上。これが一番最初に述べられておりますので、ぜひICTを利用した——利用したですね。これが目的化するわけじゃないので、ぜひこれを道具として、どんな指導力を向上していくのか。これをぜひ現場で検討していただきたいなと思います。そのためには先生方の当然意識改革も伴ってまいりますので、先生方がこのICT化に対する意識をどう高めていくかというのは、これも課題になってくるかなと思いますけれども、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

あわせてセキュリティーの問題。セキュリティーはICT化が進んでいくと、この課題は絶対ついてくるんじゃないかなと思います。セキュリティーをどうするのかは、環境づくりをしながら作り上げていかなければならないんじゃないかなと思います。

それから、情報モラルですね。並行して情報モラルのほうも、今、非常にモラルは学校現場では問題になっている部分がありますし、町全体でも社会全体でもこのモラルの部分は掲げられているんじゃないかなと思います。リテラシーと併せてモラルのほうも並行してやっていただくとありがたいなと思います。

以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

次に徳田委員、お願いいたします。

【徳田委員】 説明ありがとうございました。

たくさん何か片仮名語で、聞いたこともないような言葉が出て、びっくりいたしました。将来、やはり展望ということで、スマートシティ、スマートタウンになるのかな、近い将来なるのかなというのが頭の中でいろいろ浮かびましたけれども、特に窓口でのデジタル化とかごみ関連ですね。住民がとても何か大事ですけども、アプリとかPHRという言葉が出てきました。あと、スマート農業とか自動運転トラクターなどというの、本当に想像していなかったもので、とてもびっくりしました。

あと、公金収入のキャッシュレス化って、これは何か身近なところで、住民の方は取りつきやすいことかと思えます。だけど、一応課題もたくさん何かあると思うんですよね。こういったサービスが、ICT活用のサービスが本当に住民のサービスの向上になるのかなというのが、そこらを今後検討される中で、しっかり考えていただきたいと思えます。

それと、今このときに、やはりICTの弱者の方、特に御年輩の方とか、そういった視点もすごく気にかかるころだと思います。持っている人と持っていない人の格差が大きくなるような、そういった施策もしっかり進めていただきたいと思えます。

私からは以上です。ありがとうございました。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございました。

では隈部委員、お願いいたします。

【隈部委員】 説明ありがとうございました。

昨年の9月に情報リテラシーを推進するための町ぐるみの組織体制の設立と推進をお願いしますということで、この場で提案をしてやっと始まったかなという感じですけども、ありがたい限りです。

それで、皆様方からいろんなITの取組の分野ということで説明いただきましたけれども、まだまだ総花的というか、部分的というか、そういう感じがしますが、これから始まるだろうなと思っています。

そういう意味では、最初にまちづくり課で言われていましたけれども、組織を立ち上げて検討するとおっしゃっていましたので、ぜひ一つは住民目線。さっき徳田さんも言っていましたけれども、住民目線で何が住民のためになるかというプライオリティーをきちんと見定めるということが重要だと思います。もう一つは、こういうことをやっている有識者の意見をきちっと聞いて、ぜひ有識者を町で雇って、その人の意見を聞きながらやると

いうことをしないと、あらぬ方向に行くなという気がします。

住民にも長洲町としてのスマートシティがどういうものなのかという構想を、やっぱりみんなに見える化して、こういう長洲町がIT化によって実現していくのかという、何かわくわくする気持ちを住民が持つような、そんな雰囲気醸し出していかなければいけないなど。これは教育においても同じですけども、そういうことです。

それから、学校においての話なんですけど、やっぱり人口減少を何とか支えていくためには、IT人材の育成はとても大事なことなので、IT人材の育成に対してさっきのGIGAスクールのところでも出ましたけれども、全校、教育委員会一丸となってどんどん推進していくという推進体制をみんなが意識しながら作っていかないとダメなと思っています。

それから、さっきちょっと出ていましたけれども、情報リテラシーを全町一丸とするとする意味でのそういう組織体制を作らないと、例えば子どもたちはリテラシー教育をちゃんとやりますけれども、大人たちがどうしてもそこに取り残されていって、何か妙に大人たちからセキュリティ意識がなくなってくる、あるいは活用する意識が低いということだと進められませんので、全町でそういうリテラシーを進める体制というのがやっぱりもう一つ必要ではないかと思っています。

以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

上野委員、お願いいたします。

【上野委員】 各課の今後取り組みたい目標、方向性などを聞かせてもらって、私ももう中学校の頃から携帯を持っている世代になるんですけども、どうしてもやっぱり電子化されていく。そっちのほうが効率がいい部分はどんどん電子化を積極的にやっていただいていると思うんですけども、人には人にしかできないという部分もあるので、その部分も取り入れながら新しいまちづくり、未来に向けて今後皆さんと協力して作っていったらいいなというのが一番の感想です。

福祉保健介護課のほうで言ってもらっていた、高齢者等へのスマートフォンの普及という部分があるんですけども、長洲町は特に健康な老人の方もすごく多くて、好奇心もかなり持ってある方が多いです。なので、私はもうパートナーシップを持って、要は、NTTとかそういった連携を図っているところと一緒に、老人向けアプリみたいなものを開発したらいいと思います。健康状態、朝起きたらという管理とかですね。そういったものはもう赤ちゃんから老人まで全部使えるものなので、すごく電子的なアプリに関して

は、そういう推進をしていていただきたいなど。子育て支援の母子手帳アプリもそうですけれども、やっぱり子どもが2人目、3人目になると書かなくなるんですね。でも、アプリは通知が定期に来ますし、定期的に開いて見る回数も増えましたので、個人的にはこういう健康に関することに関しては、アプリをどんどん活用して、どんどん町からもLINEとかで情報提供をいただければ、あらゆる世代の方が活用できると思いますので、その辺に関しては皆さんと一緒に作り上げていけたらいいかと思います。

以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

教育長、お願いいたします。

【戸越教育長】 まずもって1人1台の端末の導入ということで、ICT教育が進められていけるなということを実感するとともに、本当に導入していただきまして、まずはありがとうございます。しっかりと活用を定着していくように、今後、努力していきたいなというふうに思います。

それとも関連するんですけれども、もう一つぜひ教育委員会をお願いをしたいというのが一つあります。これはICTの活用によるネットワークづくりをぜひやりたい。教育委員会と各学校、あるいはそれぞれの先生と個別に、それから学校間同士で、また、教職員同士でというような、町内にそういうネットワークづくりができると、例えばGIGAスクールを推進していくときでも情報の共有化ができるし、お互いの指導力を高め合ったり課題を解決していく方策を探していったり、そういうものができるんじゃないか。

そのほかにも学校の様々な教育の充実ですね。教師の指導力の向上だったり、それから学力向上であったり、教職員の資質や能力、指導力の向上であったり、ひいては働き方改革にもこういうネットワークづくりをすることでできるのではないだろうかというようなことを一つ考えています。また、教育委員会の大きな使命であったり役割というのは、学校現場でこういう教育環境をしっかりと整えてあげること。これが教育委員会に課せられている課題ではないかなというようなことを、この会議に出るときに改めて感じたところでございました。

推進のためにはどうしてもクリアしていかななくちゃいけない、それは環境を整えていけばいくほど、人、物、金が要るんですよ。人、物、金、それと先を見据えた持続可能な対策だったり企画立案が要る。ですから、もう本当にこれからは知恵と、知恵を本当に絞り出す。例えば限られた予算の中でどのようにお金を工面して推進していくのかというような

な、本当に知恵の出し合いが必要かなと。また、しっかりと先を見据えて実践していく実践力が必要かなと。

そんなことを考えながらこの会には臨みました。そして、先ほどから委員の先生方から、基本的なことだとか、先を見据えたことだとか、そのような御意見が出ましたので、そういうことも総合的に受け止めながら、まずはGIGAスクールをしっかりと推進していきたい。もう一つはネットワークづくりを早急にやりたい。少しお金がこれにはかかりますが、ぜひとも御理解いただいて、推進させていただければなという問題を再認したと思います。

以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

今、委員さんのいろんな御意見、御要望が出ました。行政側にとって何かその意見に対して補足する説明があったらお願いしたいと思えますけれども、いいですか。

じゃあ、私のほうからちょっと補足というか取組について、上野委員から高齢者向けのスマートフォンの普及ということが言われております。つい先日、清源寺地区の御老人の奥様のほうが徘徊をされました。これは我々もネットワークをいろんな消防団とか職員とかに結んでおりますので、さっき戸越教育長から言われたように、ネットワークづくり、学校や保護者、こういうネットワークがやっぱり一番大事かなという気がいたします。

7月にJMUからクラスターが出たときに、僕よりも保護者のほうが情報が早かったです。「町長、JMUから出たよ」と言われて、「えっ」という感じで、それはJMUが会社の人に対して出たよと言われて、それがこういった警戒、LINEを使って全て広がっていつている。すごいなと思って僕は感心しました。今後高齢者向けのアプリ、この中にGPSを入れることをまず、第一にしておかないと。この前の方はガラケーを持っておられました。だから、全然位置が分かりませんでした。まさか私も大牟田の有明海沿岸道路の入り口で歩いておられると想像もつきませんでした。こういう事例がありました。

それと、坂本委員が言われたセキュリティーの問題です。これは大事なことです。それと、こういうインターネットの世界に入れば人権の擁護、いろいろ非難、中傷がこのインターネットの中で出ています。こういうことをできるだけしてはいけないということを、長洲町民はみんな知って、人の人権を守っていく。こういうことがやっぱり大事かなと思います。

それと隈部委員と坂本委員から、情報リテラシー、僕はメディアリテラシーというんで

すけど、メディアリテラシーを我々が身につけるには何が必要か。やっぱり情報をどのよう
に自分で受け止めて、それを分析して自分のものにしていくか、これがリテラシーだと
思っております。

そのためには、職員がいろんな情報をインターネットや新聞、雑誌、本、こういうところ
から取り入れて勉強しなくてはなりません。こういうのが我々も今後のICT化が進む
につれて、いろんな外国の本とかも勉強しなくちゃならないでしょうし、いろんな場所へ
行って学んでいく。こういうこともICT化の推進とともにやっていって、我々職員はそ
ういうリテラシー、メディア、様々なリテラシーがございます。しかし、メディアリテラ
シーを取り組んでいって、そういった教育をしていくということが、中学校とかはやって
いらっしゃるということですが、我々職員はそういうリテラシーの勉強は全然やっていま
せん。今後そういうのを研修の中にも入れていって、進めてまいりたいと思っております。

るる私が意見を述べましたが、今日は校長先生も入っておられます。何か学校のほうか
ら、今後のICT化の推進について、こういうふうに行政として取り組んでもらったらあ
りがたい、また、こういうソフトを入れてもらったら助かるなというのがあったら、何か
我々に御意見、御要望をお願いしたいと思えます。

何か先生方、ありませんでしょうか。

【城六栄小学校長】 失礼します。まず、本当に教育に対してのお話をされていたんで
すけれども、GIGAスクール構想で、1人1台の端末を入れていただくということにつ
いて、本当にありがたく思っているところです。県内の中でもなかなかそういう環境が整
備されていなかったということも踏まえて、私たちも、課題として上がっていますけれ
ども、私たちの指導力の向上ですよ。そこのところをもうとにかくしていかないといけ
ないというところ。

私個人なところもあるんですけど、先生方には何がどう効率的にうまく使えるのか
というよりも、とにかく使ってみていこうというふうなところを、話をしていきたいな
と思っております。その中から取捨選択をしていきながら、何が子どもたちに本当に効果
があるのかを私たちが実感をしていかないと、広がっていかないのかなと思っております。

今現在はiPadを5台ずつですかね、各学校頂いております。例えば体育の中で、
体育で逆上がりをしているときに、個人個人やっているところ、途中で引っかけたりと
かうまくいく子とか、何か動画を撮ってお互い同士で見せ合って、ここがこうだねとか、
何かそれを共有したりするような場面に使っています。ないしは個々人が国語や算数もそ

うですけれども、意見をいろいろ書くわけですよ。それを写真で撮って、そして、前の大きな画面で見せて、「彼はこんな考えだね。どんなかな」とか「ほかにあるね」とか、「彼はこんな考えだね」とか、そういうような使い方をしていっているようなところですよ。

今度配備されていく中にいろいろアプリがありますので、その中でもっとうまく使えるようなのがあればさらにいいなというふうなところはあるかと思っています。そういうのを模索していきながら、どうしてもそこの中にはICTのメリットとか、ないしはデメリットもあるかもしれません。昔からの板書だと消えずに残るわけですけれども、ICTでぱっと見たやつは、あとはもう消えていってしまって、その中で教育効果がどちらのほうで上がるのか。そこも私たちが検討していかないといけない課題なのかなと思っています。

しばらくのその時間、3月までをずっと支援員の方に来ていただきまして、研修を深めていくというふうなことですけれども、これからもいろんなところでつまずきというんでしょうか、何かそういうのが出てくるのかなと思っています。今現在、本当申し訳ないんですけども、大画面で子どもたちが一斉に見られるというのが、やはりそれぞれの教室に大きなというのが実はないような状況であったりとか、それから、何かな。

ちょっと一番気になるのは、いろんな家庭環境的なところで、通信環境が恵まれている子ども、ないしはちょっと厳しいような子どもたち、そういうところもあるのかななどというのを今、懸念として持っているところです。さらには今、学校備付けということですけども、コロナ禍あたりがあった、ない学校はいいんですけども、何か個に応じたそういうふうな課題とかないしは課題の提出、そういうのも家庭からできれば、ないしは分からないときにちょっと質問したりとか、そういうのができるような環境あたりがさらにできていけばいいなと思っています。

一番最後になるんですけども、そういうのが今度はダウンしたときに、一斉に何もかもが全てが止まるというところもちょうと怖いなというところを思って、そこはるるまたばらばらに更新したいと。

以上です。

【議長（中逸町長）】 そのほかは校長先生、ございませんでしょうか。

中山先生、お願いします。

【中山長洲中学校長】 失礼します。中学校を代表して、昨日でしたか、ICT支援員の方とお会いしまして、学校のほうにもとても理解があられる方で、全面的な協力をしていただくという話を聞いて、とても心強く思った次第です。いよいよ12月に、長洲中は

12月17日になっているんですかね。全ての1人1台のタブレットが本当に入るということで、莫大なお金をかけて1人1台端末を取り入れたということで、子どもたちも恐らくそれを手にしたときは喜ぶでしょうね。とても喜ぶと思います。新聞に、菊池南かどこか載っていたかと思いますが、子どもたちもとても楽しみにして、それを手にして私たち教師がどう授業を進めていくかというのが今、先生たちはとても不安に思って、慣れておられる方がいいんですけども、そうでない方はどうでしょう、でくっつかなということ、今度はICT支援員の方と一緒に研修を冬休みに入って、1月からはできるだけ生徒に触れさせながら進めていくことで、何とかできるかなというふうには思っているんですが、それから先ですね。どうそれを活用していくかと。

ICTを使うことが目的じゃなくて、教育課題を解決していくことが一番の目的だと思いますので、そのための私たちの研修も必要ですけども、条件整備で学校としてどういう環境を作ったらいいのかなということで、一度うちの職員に臨時交付金が出るという話があって、コロナ対策で学年主任を集めて何が必要というときに、一番に出たのが大型テレビを固定してほしいと。すると、全校集会もZoomで、ちょうど暑い時期だったので、体育館に集めると暑いので、多くの始業式とかそういうのも体育館に集めずに教室でしました。

ぜひ映像を見せたいときにちょっとできないかと、放送だけではですね。そういう環境ができないかな、あるいは授業のときに、今うちにはiPadが8台あって、それを大型テレビに映し出すということはできるんですよ。そういう授業はできるんですけども、移動式で持ってきて、置いて、見せて、また違う教室に持っていく。その移動のときに壊れるんですよ。ちょっと不具合があって、結構もう古くて調子が悪いので、一気に教室、全教室に固定して大型テレビができないかなと。それがネットでつながるといいねという話で、それとセットでタブレット端末があるといいかと。うちの先生たちも実際どう使うかというところは、いろんな使い方が今から出てくると思うんですが、いろいろ対応できたらいいなということで、いろいろ調べたら、みらいスクールステーションというフリーソフト株式会社が何か開発しているやつで、これは教室に一つ、メディア何だったかな。

一つの箱のようなメディアボックス、これを一つ置くと、それを介してアンドロイド系のタブレットもつなげるし、iPadもつなげる。両方できるということですよ。今、うちはiPadしかつなげないですよ。Apple TVしかですね。でも、これは両方対応できる。それと、テレビで、インターネットでつながる環境にあるところで、

カメラで撮ったやつを全ての教室に流すことができる。サーバーに先生たちが作ったいろんな教材のコンテンツを入れておくと、教室に行ってそれをすぐ呼び出すことができる。パソコンを持っていかなくていい。この動画があつとですよ、動画が。それを見ると、もう先生は何ですか、家電感覚のテレビのリモコンを一つ持って行って、テレビをつけてすぐ3秒で立ち上がって、すぐスライドを立ち上げて、PDFもパワーポイントも、その画面を見ながらどんどん先に進んで授業ができる。生徒のいろんな撮ったやつを瞬時にその画面に映すことができる。そういう環境があつとですよ。

ただ、これはソフト会社に聞いたら、1台15万と言われたんです。ICTを進めるときは、そういうお金がどうしてもかかっていくとですよ。だけん、それが一番の課題かな。せつかくタブレット1台入って、それをどう活用していくかといったときに、何かちょっとできないとなると、何かストップするなという、そこを一番心配しているところです。難しいですよ。限られた財政の中でどう進めていくかというところが大きな課題になってくると思いますが、ぜひこういう整備をしていただいたので、それをフル活用できるような、現場でもそのあたりは知恵を絞っていきなというふうに思っていますので、またいろいろとそういう組織ができるんですよ。そこでまた相談しながら進めていただければというふうに思っております。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

今、両校長先生からあつた推進環境の整備、これは全ての子どもたちが休みのときでも家に持って帰って見られるような環境を作ってまいります。ですから、就学援助者がもしそういう通信環境が家になかったら、ルーターを長洲町で契約して持って帰ってもらう。やはり教育は平等でなくちゃなりません。そういう意味で、それはもう私が進めてまいろうと思っております。

それと、大型テレビのお話です。これも今日、財政担当も来ていますので、今後先生がそうやって言われた方は学校の御要望として承っておきます。実現に向けて努力してまいります。

以上、私のほうから。

それでは、今まで御意見を踏まえまして、全体協議として意見交換を行いたいと思っておりますけれども、委員の皆様、校長先生はじめ何かございましたらお願いしたいと思います。何でも結構です。

隈部委員、お願いします。

【隈部委員】 中山校長から今、いろいろおっしゃっていただきまして、ありがとうございますというか、今までICT推進委員会というのは一応ありましたけれども、物がないうちで想像しながらこれがあればいいとか、そういった議論しかできませんでした、現場で本当にやる時に何がネックになるのかというところの思考も届かなかったので、今おっしゃったような、これがしたいというものはっきりおっしゃっていただくと、じゃあ、今用意しているものの中でどういうふうに工夫すれば実現できるかをまず考えたい。それをICT推進委員会のメンバーで考えて、じゃあ、こういうふうな方法でしようということになりながら、やっぱり無理だなということになったら、じゃあ、これを買わなきゃいけないということで、それは予算化して徹底的に導入を進めていくという方向で考えたいので、このICT推進委員会の中で本当に必要なものは何なのか、そして、どうやればこれが今の環境でうまくいくのか、何が絶対足りないのか。そういうことを見極めながら進めていきたいということで、いろいろとこれがしたい、あれがしたいということであるとは思いますが、そういうことでまずは進めていきたいと思っています。

もう一つ、先ほど教育長からネットワークの話がありましたが、理想的には教育委員会が管理するサーバーとか、そういうシステムがあって、その中に各学校が作っているコンテンツとか、これはぜひ使ったほうがいいというコンテンツ等を集めて、そして、使い方も含めて各学校がそれを工夫して使ってもらおうとか、そういう環境を持っていることが私はベストだと思いますので、ぜひ将来的には教育委員会としての確たるシステムを持って、具体的に言うと例えばサーバーとかアプリケーションが教育委員会の管轄の中できちんとあると。そういうものにしていくべきだろうと思いますし、また、行政全体としてもデータの共有活用という方向に、ビッグデータなのかもしれませんが、そういうシステムを構築していかないと、やっぱり将来的にはうまく効率的にデータを使えないと思っています。そういう方向に持って行っていただきたいし、いきたいと思っています。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

そのほか、委員の皆様からございませんでしょうか。

どうぞ。

【上野委員】 校長先生からのお話にあったタブレットに関してなんですけれども、コロナ禍ではありますが、それ以外にも学級閉鎖ですとか、あとはとても素晴らしい先生の授業、ああいったものを子どもたちが、例えば4年生なら4年生の、長洲町の子どもがみ

んな一斉にすてきな授業を受けられる、そういった環境整備を私たちも夢見ている、学級閉鎖なんかも、やっぱり先生たちの判断ってすごい大変難しい。あと何人来たら締めなんとか、そういったのではなくて、もう今日からはおうちで授業ですというふうなのをきちんとすっぱりと決められるような、そういったのにもタブレットってすごく活用できると思っていますので、休みが何日だから、次は何日出てこんなんというふうな悩みじゃなくて、子どもたちの学びの保障をできるように大いに活用いただければいいかなと思ひまして、お話を聞きました。ありがとうございました。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございました。

そのほか、何かございませんでしょうか。

それでは、ないようですので、本日はいろいろと貴重な御意見をお聞かせいただき、ありがとうございます。いただいた御意見を参考にしながら、これからのICT施策に生かしてまいりたいと思います。

それでは、本日の協議・調整事項については以上となりますので、本当に皆様、ありがとうございました。

【司会（石本総務課長補佐）】 それでは、次第4にありますその他について、事務局から連絡をお願いします。

【事務局（五十嵐総務課担当）】 事務局でございます。

私から、今回の総合教育会議についてでございますが、御存じのとおり新型コロナウイルスが現在、猛威を振るっておりまして、全国的に予断を許さない状況となっております。また、熊本県のリスクレベルが4ということで、大変厳しい時期でございますので、できれば年明けのほうにちょっと開催も考えていきたいと思いますが、また状況を見て判断してまいりたいと思いますので、委員の皆様につきましては、よろしくお願ひしたいと考えております。

以上でございます。

【司会（石本総務課長補佐）】 事務局からございましたが、またその他、ほかに何かございますでしょうか。

（「なし」の声あり）

【司会（石本総務課長補佐）】 ないようですので、それでは、本日の会議は以上で終了となります。これで、令和2年度第1回長洲町総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。

【議長（中逸町長）】 どうもありがとうございました。

以上、会議録の顛末を記録し、相違ないことを証するため、長洲町総合教育会議運営規約第6条第3項の規定に基づき、ここに署名する。

町 長

教 育 長